

# 那珂市議会 原子力安全対策常任委員会記録

開催日時 令和4年3月14日（月）午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 武藤 博光 副委員長 花島 進

委員 關 守 委員 大和田和男

委員 富山 豪 委員 笹島 猛

職務のため出席した者の職氏名

議長 萩谷 俊行 事務局長 渡邊 荘一

次長 横山 明子 次長補佐 三田寺裕臣

会議に付した事件

(1) 委員会の今後の進め方について

…5つ項目を決め実施していく

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 皆さん、おはようございます。

今回、原子力安全対策常任委員会もメンバーが半分ほど変わりがちで、また新たな闊達な意見、そしてまた新たな認識、見地が得られると思っております。

新型コロナウイルスにつきましても、皆さん、ご存じのよう県内では1,000人を超える方が出ておりますけれども、十分留意なさって活動されることを期待しております。

開会前にご連絡いたします。

感染症対策のため、委員会出席者並びに傍聴される方につきましては、マスクの着用及び手指の消毒をお願いいたします。また、換気のため廊下のドアは開放しております。

会議は公開しており、傍聴可能でございます。会議の映像は庁舎内のテレビに放映しております。必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。

携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくかマナーモードをお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名全員です。

定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会といたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席しております。

最初に、議長からのご挨拶をお願いいたします。

議長 皆さん、おはようございます。

今日の会議については、委員会の今後の進め方についてということでありまして、当委員会は大変難しい大変な委員会だと思っております。これから、武藤委員長を中心として、よりよい導き方を出していただければなど。また、議論を深めていただきながら出していただければありがたいと思っておりますので、委員の皆さんには今後ともどうぞ

よろしく願いをいたしましてご挨拶とさせていただきます。今日は大変ご苦労さまです。  
委員長 議長からのご挨拶ありがとうございます。

本日、執行部は出席しておりません。議員各位でもって今後の進め方についてお話を願  
いたいと思います。

それでは、これより議事に入ります。

本委員会の会議事件は、別紙会議次第のとおりでございます。

それでは、会議事件、委員会の今後の進め方についてを議題としてまいります。

その前に、5月に予定しております、市内及び東海村にある原子力事業所、合計4社か  
ら年間事業計画の説明をしていただく予定となっておりますので、5月にも原子力安全対  
策常任委員会を開く予定となっております。

その後、この委員会をどのように進めていくか、皆様のご意見をお伺いしたいと思いま  
すので、この委員会におきまして皆様方の進め方、一応この任期2年間ありますので、前  
期と後期というふうに分けてでありますけれども、どのようなことを目指して結論を導い  
ていくのかということだと思っております。

この前の任期の原子力安全対策常任委員会におきましては、次の委員会に申し送りとい  
うことで、全員協議会でも皆様にもお配りいたしました書面があったとは思いますが。その  
中を大体精査しますと、市内の方々の安全対策についての認識というものがまだよく分か  
らない状況だというのが多く出ておりました。

あと、そのほか、各種4団体との意見のヒアリングというのも行っただけでございまし  
て、結論としてはどのようにすべきかということも出てはおりませんでした。

また、それとは別に日本原電の工事の延期が2024年9月目途ということになっておりま  
すので、6市村の安全対策の問題、そのあたりも含めまして、私たちの今後の活動、進め  
方について各委員からの方向性をお伺いしたいと思っておりますので、挙手をもってお願いいた  
します。

副委員長 委員長からお話がありましたように、東海第二原発の再稼働予定時期、再稼働とい  
っても本格運転というかな、営業運転という前に検査の運転をするんですけども、その  
時期がもともとは今年の12月を予定していたんですけども、延期になって、2024年です  
か、9月になったということで、時間的に少しスケジュール感が変わってきたと思います。

那珂市は、東海第二原発の再稼働の可否に関わる6市村のうちの一つですから、市長の  
判断、首長の判断というのが大事だし、首長の判断そのものは市民の意見、それから議会  
の意見も聞いてということになっていきますので、議会として何らかの意見があるなら言っ  
ていかなきゃならない立場は変わらないんですが、ちょっと時間的余裕がありました。

私自身は、再稼働可否の検討というのは早いほうがいいと思っています、実際は。なぜ  
かという、電力会社の立場になれば、もし駄目なもんだったら、早く駄目と分かったほ  
うが無駄な投資が少ないということがあります。それから、市民にとってもどっちかはっ

きり早く決めたほうが良いという方も多いと。不安な状況でずっといるのはあまりよくないと思っています。

ですけれども、どちらに転がるか分からないという状況で、日本原電も早い決着を望んでいないし、議会にしろ、市民にしろ、十分議論を重ねてからでないと、どちらに結論を出すにしても、何ていうかな、安易な結論になりかねないという状況だと私は思っています。

ですので、しっかり議論を重ねる時間ができたというふうに考えるわけですが、逆に言うとあまりのんびりしていてもしょうがないというふうに思っていますので、議論をかさねていきたいと思っています。

それで、課題としては私は大まかに2つあって、1つは、議員の間でもっと勉強とかそういうのが必要だと。大分前から容認派の識者、それから原発反対派の識者、それぞれ1人ずつ意見を聞いて、勉強会をやりました。その後、市民の声を聴く会をやり、新型コロナウイルス感染症で大勢集まるのが難しくなった時期が来たので、市内の4団体から別々に懇談の場を設けて話を聞きました。

それで、市民の声を聴く会で集まった方々は、どちらかというと再稼働反対の方、それから賛成の方、それぞれいたわけですが、市内の諸団体から聞いたところでは、あまり考えていない方が多かったです。

それから、避難計画についても、那珂市は避難計画については、できたということになっていないというのは、皆さん、ご承知だと思いますが、とはいえ避難の、何ていうかな、ガイドマップでしたっけ、正式名称は、ガイドマップは配られているんですよ。ですけれども、ガイドマップに対する認識もあまり強くないということです。

ですから、市民の間で考えてもらうという、それから避難するとしたらどういう体制だということを理解してもらうというその2つの側面、議会と市民、それぞれで議論を進めるということが必要かなと思っています。

それで、前に勉強会やったときから議員の構成も変わっていますので、また識者を呼んで容認派と反対派、それぞれから意見を聞くということを全議員対象にやってはいかがかなと思います。

あとその先、市民の間でどうやって議論を起すか、理解を深めるかというのはちょっと難しい問題で、また考えなきゃいけないかなと思っています。皆さんのご意見も伺いたいと思います。

富山委員 1つ質問なんですけど、そもそもなんですけど、私、2年ぶり原子力安全対策常任委員会に戻ってきたんですけど、市長のほうから議会の意見というのは求められているんでしょうか、今。

副委員長 議会に諮問という形にはいっていないんですよ。ただ、一般質問の回答で議会の意見も聞くと言っています。いろんなほかの市民の声とか。

富山委員 原子力に関しては、先ほど委員長言うように、みんな、いろいろ、かくかく、おのおのお考えがあったりして、議長が言うとおりに本当に大変難しい問題だと思います。だからこそ今市長も6市村で首長懇話会でしたっけ、やはりみんな各地域と一緒に足並みを歩調を合わせて進めていく問題だと私は認識しているんですが、再稼働否かは、この原子力安全対策常任委員会で決める話では私はないと思っていて、そもそも那珂市議会にその権限もございませんし、そういうもしみんなで共通な認識で意見を出すのであれば、やはり全員で話し合うべきときが必要だと私は感じております。

あと、やはり市長、首長懇話会みたいに、議会もほかの議会と足並みをそろえる部分も必要であればいろいろ話し合いを持ってみて、どのような考えを持って、どのような動きをしているのかというのもやはり参考にしながら進めていく必要があると思っております。

あと、勉強のほうですが、実際、電気は足りていると言われておりますが、本当に実際のところはどのような状況になっているのかなんていうのもやはり勉強の一つの中に入れていただくとありがたいなと思います。

以上です。

大和田委員 今後の進め方ということで、先ほど富山委員からもちょっと話があったんですけども、エネルギー供給に対するということで、今般、ウクライナの問題で原料も高騰しているですとか、そういったものも含めてやはりエネルギー供給に関しての勉強は再度必要なのかなと思います。あとまた、今回、そのウクライナの問題に関しても廃炉にしたチェルノブイリが占領されたなんてということで、テロ対策なんていうのも、再稼働云々よりもやはり必要なこれから経費というかになってくるのかなというところではと思っています。

また、先ほど6市村の話もあったんですけども、やはり近隣市町村と足並みというよりは、近隣市町村と議会、原子力担当等の議会とかもちょっと意見交換等も必要なのかな。我々が知る範囲では新聞等とか、あと知り合いの議員から聞くとか、そういった程度でしかないの、やはり議会同士ちょっと付き合っていくのもいいのかなと思います。

それで、副委員長からもお話があったんですけども、容認派、反対派というような識者の勉強会というのもそうですけれども、また、国の担当ですとか、規制委員会に話聞くかどうか、これ分からないですけれども、もちろん知事も言っていますけれども、県の担当あたりからも今現在の情報とか、勉強会、そういったのを開いていくのはいいのかなと思います。

また、原子力意見交換会、私もライブ中継で見ていたんですけども、先ほど言われていたとおり、市民の皆さん、まだ関心がないとか、知識がないとか何かこうまだまだ興味関心がないという状況の中なので、少し我々も議会としても情報発信的なことをしてもいいのかなと。例えば、議会広報なんかでも原子力安全対策常任委員会の記事なんていうのは、報告がなければ書かないというような現状だとは思っています。なので、こういう公平

な記事というのが必要だとは思いますが、こういう話合いしているよ、勉強しているよというのを毎号でも発信できたら、少しでも市民の皆様の目に留まるようにして、議論を重ねていければと思っています。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

關委員 初めての委員会で頭の中の整理はついていないんですが、先ほども控室で再稼働を目指して工事が進んでいる東海第二原発、40年たって再稼働、なぜ再稼働するのかというちよつと理解に苦しむところもあります。

それと、40年間、東海第二原発の電力需給がどのぐらいのその恩恵を一般市民にもたらしているのかということもあまり表に出てきていないような感じがしていますので、その辺のところを仮に廃炉した場合に、代替えの電力は十分に賄えられるのかという話も、我々素人にはあまりはつきり分かっておりません。ですから、その辺のところの原子力の電力がどのように今後進めなければならないのかということも十分に考えなければならないと思いますし、何人かの委員からも出たように、そういった勉強会、視察も含めてですね、六ヶ所村なんていう最終処分場の話も出ましたが、控室のほうで。そういう勉強会も、今後大いにやっていかなければならないなというふうに感じております。

笹島委員 東海第二原発、今年の12月に一応再稼働準備予定ということだったんですね。向こうの都合でいろいろテロ対策とか防潮対策と1,700億円、1,800億円使って、非常にもう再稼働ありきということで。日本のこの原発も大体もう40年過ぎて、これから老朽化して、また20年延長という原発も結構周りにあると思うんですね。

結構、東海第二原発というのは関東圏でここだけなんで、東京に電力を供給するということで。それで、逆に言えば注目の的なんですよね。昔は何もなかったところに原発の火がここへともされて、それからもう何年もたって行って、原発安全だと。安全神話が福島で崩壊しちゃったわけですけども、それから安全だということで住民の方が住宅建てて、会社もつくってというこういう具合になっちゃったのは、日本でも珍しいところなんですよね。ほかはもう岬の端のところに造って、何キロに誰もいないようなところなので、ここくらいだけだと思うんですね。人が周りに増えているというので。

何が言いたいかということ、そういうことのちよつと事情が違うんで、ほかの原発とですね。先ほど、誰でしたっけ、最終処分場のことも言っていましたよね。日本もなかなか最終処分場決まらなくて、再稼働しよう。先ほど言ったトイレなきマンションみたいなもので。そういうことも私ら本当に興味を持たなきゃいけないということで、今の六ヶ所村の、まず一つは見てこようということ。これは当たり前の話。本当は国がもっと本腰入れてやんなきゃいけないことなんですよね。

そうすると、これからエネルギーが日本は稼げないところがないんで、原発も再稼働と今、先ほど、大和田委員が言ったウクライナ侵攻で原発をあれしているんで、再稼働が見

直されるんじゃないかという機運が高まっているんですよ、今ね。もちろん核保有も高まっているかもしれないですけども。それは話は別として。そういうところにおいて、やはりエネルギーミックスは大事なものですから。

あと、東海のその特別な地域ですよ。今言った住民が周りに囲んでいるようなところはないということで、そういうことも特殊なところなんで。市民の方たちとはもう語ろう会でやりましたよね、だからね。ですから、前は特別団体の方のみでやっていましたよね。4団体か何かで。それはいいとして、本当の一般の市民の人で、必ずその来る人たちというのは、反対か賛成。でも我々は、中立な立場からして、とりあえず反対、賛成よりも市民の方がどう思っているかというのが、まずもう一回再確認して行って。

それからもう一つ、やはり行政というか、いや、執行部は執行部、市役所は市役所の考えが、反対、賛成とあると思うんです。でも、那珂市議会としての考えも持たなきゃいけないわけですよ。要するに、最終的には。今、本当だったら今年中に結論出さなきゃいけなかった。でも2024年まで延期したから、待てばいいというものじゃないでしょうね。やはりそれはもういろんな話を聞きましたよね、大体。でも、新しく入った方にはもう一回少しは聞かなきゃいけないという。今度、結論出さなきゃいけない、議会として。

もう一つ、議員との連携もあるかもしれないけれども、多分、常任委員会とか特別委員会を原子力、持っていないところが多いんじゃないんですか。那珂市くらいですよ、こう積極的にやっているのは。ですから、聞けないですよ、聞こうと思っても。もちろん知識経験が我々もないかもしれないし。我々は先端を行っているものですから。我々は我々の議会として結論を出さなきゃいけない。そのためにやはり今言っていた見聞を広めなきゃいけない。でも、できるだけ早くそれをしなきゃいけない。要するに待ったなしで、もう2024年というのは、もうこれが最終だと思えるんですよ。ですから、その前に結論出さなきゃいけないということが私が何か急がれているんじゃないかなという。

以上です。

委員長 各委員から様々なご意見が出たわけでございますけれども、大体分類すると5つぐらいに分けられるのかなというふうに思います。5つの問題、これを1個ずつちょっと精査していきたいと思うんですけども、1つ目が、市民等の声をヒアリングをするということ、これがやはり1つにあるのではないかと考えております。一応、市民との対話、ヒアリング、これについて1つ目。

あと2つ目は、議員勉強会。これは賛成反対問わず、今後のエネルギー政策はどうなるのかとか、原発としての有効性はどのようなものがあるのかという勉強会。

あと3つ目が、その視察の問題。視察なんですよけれども、数年行っていなかったわけですよ、どの辺りのところが皆さん、希望するのかというこの視察。

あと4つ目が、6市村との議員同士知っている方とか、もしくはほかの委員会とか何かの協議ができればよいということですよ。6市村の議会との意見の交換が持ちたいという

こと。

あといずれにしても最終的に重要になってくるのは、ここで委員会、もしくは市議会としての再稼働についての可否。これは笹島委員も副委員長も言っていますけれども、なるべく早い時期がよろしいということでございます。

このあたり精査しますというと、一応この5つのテーマの中から1つずつどういうふうな方向でやっていければよろしいのかなという方向で今から進めていきたいと思います。

じゃ、1つ目は、この前期の常任委員会でやりました市民との語る会、そしてあと4団体とのヒアリング、このようなことをやったわけですけれども、今後のこの期における委員会においてどのような形で進めていきたいのか、もしくは要望とかあったらご意見お願いしたいと思います。

例えば、前回のときは瓜連地区とこの中央公民館で市民との対話をやっております。あと業界団体と4団体やっております。ですから、それとはまた異なった方法で交流をしていければよいのかなというふうに思うんですけれども、皆さん、ご意見とか案があれば出していただければと思います。

大和田委員 市民とのその交流というか、発信とかそういったところなんですけれども、今、正直コロナ禍というのがあって、いつも集められない、施設がどうだということがあるので、先ほど委員長がおっしゃられた2番、3番、4番ですか、勉強会ですとか、視察ですとか、そういったほかの6市村ですとか、県との交流ですとか、そういう勉強会ですとかそういったのをコロナ禍の中では我々が一番勉強できる時期なのかなと思います。そして、先ほど私もちょっと言った、広報等でそういうのをどんどん発信して行って、その後、新型コロナウイルス感染症もいつ明けるかとは言えませんが、市民との交流というか意見交換がスムーズにいくのかなと私は思います。

以上です。

副委員長 大和田委員の意見で広報というふうなんですけれども、例えばあるときは特集、紙面をかなり使わせてもらって、何か発信するというのもいいかなと思いますね。今まではちょこっとしかなかったですから、場合によっては特集をつくらうかね。

大和田委員 そういうのをやはり広報編集委員会に原子力安全対策常任委員会として申し入れていくのも、一つの手かなと思います。

議長 今、副委員長から出ましたけれども、あと大和田委員からも特集みたいな形でやる。もう一つは、少し多めにスペースをもらって、広報のほうに載せて、またたまには特集みたいなのを細かく出す。皆さんに、少しでもご理解いただくというのはいいんじゃないかなと私も思います。

副委員長 広報の件は、今副議長の提案とおりでいいと思います。

委員長 一応、私がこの広報編集委員会にここから出ているし、大和田委員も出ているし、あとは誰が出ているんだっけ。2人出ているので、広報編集委員会のほうに、委員長のほ

うに申し入れて、原子力に関する特集のスペースを下さいという方向で特集記事を随時掲載していくと。それによって市民に原子力に対する啓蒙をしていくと、そういう方向で一つよろしいかな。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

關委員 特集記事を組むというのは、大いに賛成だと思うんですけども、ただ、内容をやはり総花的になっても、今の時期、総花的になっても意味がないと思うんですよ。ものを絞って、対象を絞って特集記事を組んだほうがいいのかなという感じがいたしました。

大和田委員 私もそう思うんですけども、内容というか、広報編集の規定にもあると思うんですけども、公平・公正な記事というのがこれ広報のあれでありますので、やはり我々もちゃんと勉強会を重ねて、特集記事をたどころです、ああですという意見だけではあれなので、勉強会を進めながら、同時にそれを記事にしていくという形がいいのかなと私は思います。

委員長 広報について、一応テーマごとに年4回しか確保できないわけだから、テーマを絞ってやんなくちゃいけないのかなと思うんですけども、やはり市民の人、避難路の問題というのも大事だし、そのような問題から今度、第1回目出るので、避難路あたりから進めていきたいと思うんですけどもいかがですか。避難計画についてと、この前やった避難訓練のこととか。

副委員長 避難路を結構問題にされるんですけども、実際にはそもそも避難しなきゃならないとなったら、それだけ物すごい損害なんですよ。だから、避難を扱うのはいいんですけども、そのことを忘れないようにしなきゃいけないと思っています。

何ていうかな、あまり避難のことばかりやると、逃げられないとか何とかという話、簡単には逃げられない、そのとおりですけども、ただ、何度も私、いろんな場で言っているんですが、津波なんかとは違うんですよ。だから、少々被曝してもすぐに死ぬわけじゃない。何十年後かに、あるいは何年後かにがんになる可能性がある割合が増えていく、被曝の量に応じてということで、性質がちょっと違うんですよ。だけれども、帰れなくなったら、そのままもうその損害は、物すごくそれだけで大きい、ほとんどの人が同じように大きいんで、ついつい何か命が危ないから避難しなきゃなんない、だから、避難できないのは大変という話になるけれども、そのところを誤解がないように広報していきたいと思っています。

私は率直に言って、原発再稼働反対なんですけれども、ただ、再稼働される可能性もあるわけですよ。そうしたら、やはり避難計画というのは大事になってきて、そのときに我先に逃げなきゃいけないんだ、津波みたいに。津波でんでんこといいですけども、それと事情は違うんだということもある程度分かってもらわないと、何かのときに本当に大混乱になることもあるので、そういう報道も必要かなと思います。

以上です。

委員長 この記事編集につきましては、副委員長と一緒に考えていきたいと思ひます。

一応、1つ目は広報をしていくということで、年4回掲載させていただくということいたします。

続いて、今、副委員長から出ました視察の問題。

副委員長 視察なんです、私、六ヶ所を見たことないんで、行ってみたいと思ひます。

ただ、最終処分の問題は、六ヶ所の問題ははるかに難しいんですよ。六ヶ所は、何か知らないけれども、もう、何か知らないというのは変な言い方ですかね。何度も何度も完成時期を延期して、正直、はたから見て真面目にやっているように全く思いません。

何でかという理由の一つが、要するにそこで処理しても持っていく場所がないんですよ、その後。でも、その処理するよという話にしておけば、中間貯蔵をそこら辺でやれるという頭が関係者にあるのではないかと思っています。

ですから、本当に原発システムのことを考えたときに難しいのはやはり最終処分場問題かと私は思っています。だから、それに関してちょっとどこかで聞く機会があったらいいかなと思ひます。

それから、最初の頃に言い忘れたんですが、この前の委員会でいろんな人の話を聞こうということで、国の話も聞きたいということで、茨城県選出の国会議員から話を聞きたいという話もあったんですが、実現できないでいます。ですから、それも模索してはいいかかと思ひます。

繰り返しますけれども、六ヶ所もやはり一度見てきたらいいかなと思ひます。

委員長 今の花島委員から六ヶ所を視察して、処分の在り方を勉強するという話があったんですけども、ほか何かご意見とか、行きたいところとかございますか。

六ヶ所村のほかに、どこか行きたいところございますか。

一部の委員は六ヶ所、行ったことあるみたいですけども、そうでない方が多いということで、じゃ、六ヶ所の視察ということで、今後、事務局と話を進めていきたいと思ひます。当然、地域の何とか市町村とかもくっつけて、その辺りはどういふふうな対応をしていますかというのも入ってもよろしいのかなと思っておりますので、六ヶ所の施設プラス自治体の視察ということを決めていきたいと思ひます。

では、3つ目、議員勉強会について、これはどのような形でどのような方をお呼びすれば、腹案があれば。聞いていない議員もいますので、もう一回同じ人に来てもらってもいいんですけども、そのあたりのところをご意見とか腹案ありましたらお願いいたします。

富山委員 私はさっき言ったように、原子力というよりもその電気供給がきちんと間に合っている状況なのかと、本当に危険な状況にはなっていないのかというのは本当のことを分かる人というのはどういふ方がいますか、逆に。そういう方というのは、原子力も含めてなんですけれども。

副委員長 それは、国が出しているエネルギー白書なんか見ればもう全然明らかで、全然間に

合っているんですよ。もともと原発が受け持っていたエネルギー分担というのはそんなに大きくないです。大きいっちゃ大きいんですけども、最盛期で10%ちょっと、全エネルギーの。電力で30%ちょっとです。今は動いていない原発が多いので、何%だっけな、ほんの数%です。だから、それがなくなっても別に大したことはない。

というのは、年々その省エネとかで、電気もそうですし、エネルギーの使用量は減っているんですよ。もう前にちょっと私が紹介しましたがけれども、それも全部国のエネルギー白書でそう言っています。

東海第二に関して言えば、今110万キロワットという出力なんですけれども、あの原発は特に稼働率が低くて、多分50%ぐらい、動いていたときでさえ。今ずっと動いていなくても問題ないでしょう。

太陽光発電は、ちょっと前まで茨城県内だけで原発2基分、今は3基分に迫ろうとしているのかな。いつも細かく追っているわけじゃないから分かんないですけども。一方、テロに対する怖さといったら太陽光発電とかという比じゃないですよ。

それで、先ほど笹島委員がおっしゃった安全だと思って、周りに人がたくさんついちゃったと。私も東海村に就職した口なんですけれども、ただ、その感覚というのは、実は原発事故というのはたまにしかないわけですよ。だから、個人として見たときに、例えば1万年に1回とか、何千年に1回の事故だったら別に怖くないわけです。そんなにね。ほかの、特に私が就職した頃というのは交通事故がやたら多くて、年間1万人ぐらい人が死んでいましたから。だから、何ていうかな、個人として怖くないということと、社会としてどうかというのはまた別な話なんですよ。

だから、私、東海村で、自分ごと化会議に行ったら、あれは全然とんちんかんだと思っていましたね。何でかと言ったら、この原発というのは個人の問題のように思うけれども、実は社会の大きな問題なんですよ。個人は怖い人は怖い、それはそのとおりですけども、怖くない人は大して怖くないですよ。事故が起きないと思っているわけじゃないですよ。その辺の違いがあるので、ある意味で考えるのは難しいと思っています。

それで、勉強会をやるんだったら、適当な講師を探すことはできます。私が話してもいいですけども、お前じゃ信用できないというのなら。

委員長 以前、県選出の国会議員あたりから話も聞こうという話だったんですけども。それはどうしますか。誰か親しい議員の人がいれば話しかけてきてもらえるような形だと思っんですけども、いかがでしょうか。

事務局長 以前、県選出の国会議員の先生から話を聞こうということで、もう2年ぐらい前あったんですけども、コロナ禍であったりとか、衆議院選挙があったりとか、ちょうどそういう部分にかかっちゃいまして、なかなか来る機会が、アポは取っていたんですけども、ちょっとなかなかなくて、最終的に今度はまた参議院選があるんで、それが終わらないと多分難しいのかなということです。

今、2名の方とアポ取っていたんですけども、なかなか都合悪いという話なんで、もう延期延期になっちゃったんで。また、この後、どうなるか分からないんで、また来てくれる人がいれば、またアポインとは取って、やっていきたいと思います。

委員長 今、事務局のほうからお話があったんですけども、連絡は取っているんですけども、なかなか都合がつかなかったということなものですので、これについてはまたしばらく追っかけていければ。

以前の話なんですけれども、富山委員が言っていましたように経済産業省とか、そういうところに行ったことがあるんです。どういうことに行ったかという、そのエネルギーの状態がどうなっているのかというのを資源エネルギー庁の人から、こっちから省庁に出向いて行って、ヒアリングを受けたというのはあるんです。

ですから、このような問題についても代議士とか国会議員のみならず、そういう省庁から直接出向いて行って、直接お話を聞くということは十分あり得る話だと思いますので、そのあたりもひっくるめて、エネルギー全般についての勉強というのもやっていくように、ちょっと努力してみます。

あと勉強会の、さっき副委員長が述べましたように、心当たりがあるということなので、もう一回賛成派、そしてまた慎重派の方の先生の勉強会というのを企画して。これはきっと全議員対象に行われるかと思いますが、そのとき前もってのご案内をお願いしたいと思います。

あと、4つ目、周辺の市町村議会との意見の交換会ということなんですけれども、このような原子力、特別委員会なり常任委員会を持っているのは那珂市と隣の東海村の2つになっておりますので、一番手っ取り早いのは東海村が早いのかなと思うんですけども、そのあたりいかがでしょうか。

(「いいんじゃないですか」と呼ぶ声あり)

大和田委員 私もそれは賛成です。そういったところに、例えば県の担当に来てもらったりして、お話もらって、その後、何か意見交換したりとか、そういったのがいいのかなと。国の担当でもいいと思うんですけども、というのを実施するのはすごくいいことだと思います。

委員長 意見をまとめますと、東海村の特別委員会とこちらの常任委員会との意見の交換会ということがよろしいということかな。

これはちょっと東海村の特別委員会と掛け合まして、日程の都合、向こうは多分全員でやっていると思うんです、特別委員会。

(発言する者あり)

委員長 そうですね。ですから、何名来れるかどうか分かんないけれども、うちのほうはこの6名は皆さんのご協力をお願いしたいなというふうに思うんですけども、そういうのはいかがですか。副委員長、どうですか。

副委員長 実は、東海村、ご存じかと思いますが、大混乱しているんですね、議会で。だから、それを認識しつつやるという形で、向こうからも原発容認の方と反対の方、双方来てもらうということをお願いして、進めたらいいかと思います。それだけです。

委員長 まず近隣市町村との意見交換会というのは、東海村の特別委員会と行くと。まず、これを1回行ってから、水戸市とかひたちなか市辺り。

以前、水戸市議会は、原発、東海第二発電の市民からの陳情とか、何か賛成したとかと言っていましたよね。ありましたよね。

（「趣旨採択」と呼ぶ声あり）

委員長 市民からのそのような意見も出たという話もありますので、そのあたりのところの取扱い、どのような形にその後、どうなっているのかというのも聞いたりしたりと。

この委員会にも、2年ほど前に、市民の方から再稼働反対の陳情でしたっけ。

（「請願」と呼ぶ声あり）

委員長 請願が出ていましたけれども、そのときは当時の委員会としては否決になったわけでございます。今後、そのようなのが出るかもしれませんけれども、そのときはそのように対応するということにして、まず、東海村との特別委員会との意見の交換会というのを連絡を取り合っていくと、そういう方向にしたいと思います。

続いて、5つ目、再稼働についての問題なんですけれども、富山委員のほうから再稼働は市長のほうから言われているのかとか、そういう話が出ていたわけでございますけれども、この取扱いですよね。どのような形でこの委員会でもとめたい、まとめていければよろしいのかなということなんですけれども、前回の委員会では結局結論は出ずに、今期の委員会に先送りということで答えは出せなかったんですけれども、この委員会としては、任期が終わるといふこともあるし、結論は出さなくちゃならないのかなというふうには思っています。それがどうであれ、いずれにしても答えは出さなくちゃならないのかなと思うわけでございますけれども、この東海第二原電の再稼働については、皆さん、どのような思いとかあると思います。時期とかもあると思いますけれども、今の私見で結構でございますので、こうしたい、ああしたい、私は再稼働に賛成だ、反対だとも結構ですけれども、そのあたりのところを屈託のないご意見賜れば、富山委員からお願いしたいと思えます。

富山委員 この再稼働、先ほども言いましたが、再稼働、否かは、これを6人で話し合う問題ではないというのは思います。全員で話し合っ、これに対する多数決で出して、賛成、否かというのも本当に必要なのかなというのも私、判断、自分の意見があっても、皆さんかくかくあってもいいと思っておりますので、結論というのは結局、私たちは議会として何を求められているのかなというのがまず明確になっていない以上、やはり意見としてそれは市長に伝え、市長に判断してもらうというような感じなのかなというのは、思っているところなんです。

何度も言うようですけれども、この6人で再稼働、否かは判断してはいけないと私は思っております。できる話ではないですけれども、そういうふうに。まかり通るわけでもないし。

副委員長 いずれにせよ、6人で判断できないです。これ全てのことがそうですよね。やるとしてもこの各委員会が提案して、議会で決めるわけです。だから、それはこの件に限らずそうなっていると。

それで、それを前提にもっと広く議論して決めたいというのが私の考えです。

私は明確に反対です、再稼働は。

だけれども、ちゃんと議論せずに何らかの結論出すのも賛成できないということで、ずっと続けてきていますので、ぜひそのように進めたいと思っています。

任期があるからということと、実際のその再稼働の日程、日本原電が考えている日程を考えたら、やはり我々の任期というのは再来年の2月ですよね。だから、再稼働の今の予定の半年前ぐらいになるわけです。もし、新しく議員が代われればそのときにまた考えは変わるかもしれませんが、かといって彼らに半年で何らかの意見を出せというのは、ある意味で、できればそれをするもちろんする権利はあるわけですが、難しいと思うので、委員長が言うように我々の期の中である程度の結論を出したい。

その結論ですけれども、議論をした上で完全に分かれて、どっちともつかないんだったら、それはそれで一つの結論という形で結論を出すという、結果を出すと言ったらいいかな、という形で進めていったらいいかなと思っています。

富山委員が言うように、我々が権利があるわけじゃないですけれども、逆に言うと市民は権利があると思っているわけじゃないですけれども、でも、議会が何らかを考えて、何らかの意見を出すということは、やはり市民は期待しているんですよ、どちらにしても。ですから、そういう認識で進めたいと思っています。

大和田委員 となりますと、先ほど言った勉強会ですとか、視察ですとか、そういう協議を深めていくというのが、ここ当分の、当分というかやることなのかなと思います。

以上です。

委員長 大和田委員、時期的にはいつ頃までにある程度答えを出したいというようなお考えでしょうか。

大和田委員 先ほども副委員長からあったように、議員の任期の後になる話ですよね。となると、この委員会で決することがこれ進めながらの話だからのこともあるかもしれないですし、もしかしたらその半年前の我々の選挙の争点になるのかもしれないですし、これは私はちょっとこれがいつまでというよりは、そういったこともあるのかなと、今のところは思っています。

委員長 ありがとうございます。

關委員、いかがでしょうか。

關委員 私も結論はどういう結論であれ出すべきだとは思いますがね。

ただ、40年たったものをあえて電力の需給がそんなに高くない現在、なぜ再稼働に向けて40年たったものを工事しなきゃならないとちょっと疑問を感じるんですね。その辺のところをもうちょっとこの委員会、原子力安全対策常任委員会ですので、やはり安全なものにするためにどうするのかというものが、地方の議会ではなく国としてそういう方向性をきちっとまず示していただいて、それに基づいた議会の対応をすべきだなというふう感じております。

それと、委員会の結論の時期が出ていますけれども、やはり我々も任期がありますので、先ほどの意見と同じように2年後の早い時期に何らかの結論は出さなきゃなんないのかなというふうには考えております。

あともう一つちょっと別件なんですけれども、市民との懇談会でしたっけ、那珂市以外の方が随分来ていて、その方の意見がやはりちょっと大半を占めたような感じもしましたんで、時期はまだまだ今コロナ禍ということですから先になるかと思うんですけれども、もしやるのであればやはり那珂市議会なんで那珂市民の方々を対象に選出方法はお呼びする方法はいろいろあると思うんですけれども、そういうのを絞ってちゃんと考えたほうがいいのかと思います。

委員長 今、關委員のほうから、ヒアリングのほうは今度は那珂市民をしたいというような意向がありました。前回、2回は近隣市町村の方も広く呼びかけて、フェイスブックとか、もしくは様々な方法で募った結果、いろんな人が来たわけでございますけれども、今度やるときは、例えば地域を絞りまして、その地域の人たちとやっていくのもよろしいのかなという一つの提案だと思いますけれども、その点については考慮していきたいと思います。

笹島委員、再稼働についての意見。

笹島委員 再稼働、これは那珂市、先ほども何回も同じことを言うんですけれども、きちんとした那珂市議会としての意見ですよね、再稼働すべきか。再稼働するべきじゃないのかということは、やはり那珂市議会にとってこういう常任委員会を持って、もう長年やっていて歴史がありますから、何をやっているんだと、市民から。あなたたちはだっぺ話ばかりしているのじゃないのと。

要するに結論から言えば、再稼働が2年延期になったわけでしょう、2024年になって。ですから、本来だったら今年やらなきゃいけなかったんですよ。延びたわけですから、ですから今、余裕的な話ができるわけです、研修しよう、視察をしようとか、講師を呼んでとか。本来ならだったらできなかつたはずなんですよ。もう本当に。

ですから、私らがやって、この1年、2年ですか、だから遅くとも2023年までには結論を出さなきゃないということのためにこういうことをやりましょう、ああいうことをやりましょう、要するに出口を見つけなければしょうがない、中身があって。中身から入っていっちゃ駄目ですよ。出口がこうするかと、こういうあれだということをしちんと決めて

いって、2023年何月頃までに結論を出しましょうということではいけないと、今言っていた進歩的な、何ていうかな、常任委員会にならないから。そのために先ほど言っていた東海村のあの方たちの、初めて聞きますから、あの方たちの常任委員会の委員の人たちから聞くのも大事なことだし、研修もしていなかった人もいますから、そういうのを繰り返すのも構わないですけども、そういう形で研さんを積んでいって、結論を見いだすという、何のためのあれか、このためにやるんだということを絶対に勘違いしないようにしてください、それは。

委員長 今、笹島委員のほうから期限を切るべきだというようなご意見でございます。關委員のほうからも期限は切るべきだというふうな話がありまして、副委員長も期限は切るべきだという話がありまして、このあたりのところどうでしょうか。この委員会の2年間の任期があるわけでございますけれども、その再稼働に対しての意見の集約とういのをやはりある程度の期限を持ってしたほうがいいんじゃないかというお話なんですけれども、そのあたりいかがですか。一応ゴールを持ってそこに向かって突き進んだほうがよいのか。もしくは勉強会で終わってしまってもよいのかということなんですけれども、最終的なこの落としどころはいかかですか、皆さんのお考えは。

關委員 毎回、原子力の話になると再稼働再稼働と、再稼働が定着しちゃっている感じがしますけれども、その再稼働をした後、何年ぐらい、10年ぐらいですか、最低できるというか、稼働する時間、期間というのは。そうすると、その後の再稼働、廃炉の問題は全然議論されていないですよ。

ですから、再稼働は仮によしとしても、その後の東海第二の在り方というものも将来的な見通しも全くない中で何か再稼働だけが独り歩き、言葉が独り歩きしているような感じがしますんで、その辺の長期的な展望というのもっと具体的に示すべきだなという感じがいたします。

委員長 今、關委員のほうから、長期的な展望というお話が出ましたけれども、そこまで私たちはどのように考えるか。

副委員長、何かございますか。

副委員長 それは、すごく難しい問題だと私は思っています。

まず、ご存じのように40年、原則として40年までということになっていたんですけども、今はあちこちでプラス20年の特別な例というのが全然特別じゃなくなってきましたね。外国の例から見ると、60年を超えても運転している例があるんですよ。そういうことから考えると、60年のその先もまた何かルールが変わって、動かす可能性もゼロではないです。

ただ、見通しを持ってというのは、我々は原発を造るほう、造ったり運転する方の立場じゃないですから、なかなかそれはどうあるべきとは言えないですね。例えば、再稼働にしても再稼働すべきだということはまず言えないでしょう。運転してもいいよと、容

認か反対かなんですよね、どちらかというと。

ですから、広い視野の政策としては關委員の言っていることは分かるんですが、我々が東海第二にどう向き合うかということに関しては、なかなか難しい、再稼働可否以上の難しいことがあると思っています。だから、電力会社がやめだと言ったら、いずれにしてもやめですから、運転何とでもしろなんて我々から言えるわけではないですよね。言っちゃいけないということじゃないんですけどもね。すごく気持ちは分かります。何ていうかな、当面の課題以外に広い視野でエネルギーの問題とか原子力をどうあるべきかという問題もありますから。

私自身は、もともと物理を学んで核エネルギーの利用に対していろいろ考えがあるから、核エネルギーを理由に100%放射能と相入れないとは思っているわけじゃないので進めたいんです。その立場からすると、逆に東海第二は駄目だ。要するに、長いこと世間にこれを動かしますと言えるものじゃないというふうに思っているんです。やはり技術が社会に認められて広く使われるためには、一定の安全がないと駄目ですよ。車だってできたばかりの頃は、もうその日のうちに交通事故を起こしたという話を聞いているんですよね。だけれども、今はもうだんだん技術が進んで大分減っていますね。それでもリスクあるわけですが。それと同じように時間が進んで、技術が進んだ段階で、昔のような危ない自動車だったら、これは社会にとって害悪でしょう。

そういうのを考えたときに、古い原発で安全性の低いものを無理に経済性だのメンツだのにこだわって使っていたんでは、かえってその技術が社会に広まるための障害になると私は率直に思っています。だから、核融合研になんかについても、核分裂、普通の原子力というのは核分裂反応を使うんですけども、二の舞を踏まないように慎重にやってくれというふうには知り合いには言っていますね。ちょっと余計な話までしちゃいました。

委員長 意見を統合しますと、それはあまりにも長期的で莫大な分野なので、一応今回、東海第二原電の再稼働というのは6市村のほうに諮問される時期が少なくとも我々の任期中に来ると思いますので、その以内である程度の方向性を決めなくてはならないかと思うので、そのあたりのところは、これからも一般質問とか様々な向こう2年間でやり取りが行われるとは思いますが、適切な時期で判断ということによろしいのかな。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

委員長 じゃ、これも時期尚早ということではなくて、我々も十分あちらこちらのお勉強会、視察、審議、広報で市民の方への意見の啓発なり啓蒙なりして、そのようなことを踏まえて、適切な時期に判断をすると、そういう方向で任期中には結論は出さなくちゃならないと思いますので、その辺はよろしいかな。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

委員長 今委員会においては、委員の任期中の適切な時期に再稼働についての可否を判断する。それはあくまでも委員会の意見であって、議会でどうこうというのはまた結局はまた全員

協議会に諮るべきなんですけれども、委員会としてはこうでした。その後は全員協議会もしくは議会として皆様の意見はどうですかという方向で持っていくと思うんですけれども、委員会としての意見は一応決めると、そのような方向にしていきたいと思います。よろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ声あり）

委員長 異議なしということですので、この任期内に決めます。

あと、ほかにこういうことやりたいとか、ああいうことやりたいとか、抜けているところがあるとかございますでしょうか。

一応、今日、今年度最初の常任委員会ということですので、この次、5月に東海村含め、市内の原子力関連事業所から年間事業の計画の説明会というのが多分行われるかと思しますので、そのときにも一つ、原電とかも来ますので、細かいお話をこちらから聞いたりとか、三菱原子燃料とかも来ますので、いろんなこの原子力の燃料棒に関してどのぐらいの生産ができていますとか、そのようなのも詳しく聞けると思しますので、次回の原子力安全対策常任委員会のときにそのあたりはよくまとめていただければよろしいのかなというふうに思っております。

一応意見も大体集約されましたので、最終的にまとめます。

5つほどありまして、勉強会については、今後、勉強会を副委員長のほうから講師を呼んでいただいたりして、これは全員で行う、委員会のみならず全員で行うということがございます。

視察については、常任委員会として六ヶ所村及び周辺自治体を視察して、処分の中間処分の在り方についてのお勉強をするということです。

あと、6市村の交流につきましては、まず東海村の特別委員会との意見の交換会を行うということがございます。

広報につきましては、広報編集委員会に特集記事の分野を与えてもらいまして、そこで年4回ほど特集を組みながら、市民への啓発を行うと。

再稼働につきましては、この任期中、2年ありますけれども、それ以内で適切な時期に委員会としての意見をまとめて、それを全員協議会なり議会と市長のほうに答申すると、そういう方向で決めますので、皆様、向こう2年間よろしくお願ひしたいと思います。

委員長 以上で本日の会議は全て終了といたします。大変ご苦勞さまでございました。

閉会（午前11時07分）

令和4年5月26日

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会委員長 武藤 博光